



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラク：第2回米・イラン協議の開催

(7月24日付現地報道)

1. 7月24日午前、バグダッドのイラク首相府にて第2回米・イラン協議が開催され、混迷するイラクの治安状況が議論された。本協議は、5月28日の第1回協議に引き続き、ゴミ在イラク・イラン大使とクロッカー在イラク・米大使、マーリキー首相及びズイバーリー外相が出席した。同協議で米側はイランによるイラクでの暴力の促進を非難し、これに対しイラン側は、同非難を否定し、2003年の米軍によるイラク侵攻後のシーア派とスンニ派の血で血を洗う殺し合いの帰結であると反論した。
2. ズイバーリー外相は、「本協議は、困難を伴ったが生産的であり、本協議から具体的な成果が得られるとの感触を得た。我々は、イラク国民の利益の為に初めて治安委員会で協働することで合意した」と述べた。
3. 発表されたステートメントによると、新たに設置される「治安に関する第三者委員会」は、非合法武装勢力の無力化、アル・カーイダとの戦い、国境管理強化を目的とするが、イランが支援していると米が非難するシーア派民兵についての言及はない。
4. クロッカー米大使は、第三者委員会のアイデアが協議されたことは確認したものの、委員会のメンバー、委員会開催時期などについての詳細は協議されていないとし、「これらのことは、我々(米)、イラン側、イラク側が取り組んでいかねばならないことである」と述べた。